

糖尿病治療の最前線

合併症の新常識 「糖化」とは

糖化による動脈硬化の進行で脳梗塞を起こしたTさんのケース



担当医 久保 明先生
医学博士・
糖尿病内分泌専門医
東海大学医学部教授
高輪メディカルクリニック院長

患者氏名

T・A様

年齢

58 歳

性別

男性

現病歴

糖尿病、高血圧症、軽動脈硬化症

糖

尿病を発症して10年くらいたつと、動脈硬化が進みやすくなります。

糖尿病歴10年になるTさんも、悪玉コレステロール値が 140mg/dl 前後あり、軽い動脈硬化がありました。そのTさんが、つい先日、脳梗塞を起こしたのです。幸い軽度でしたので、短いリハビリ期間で通常に戻りましたが、ひとつの疑問が残りました。

Tさんは血圧も高く、梗塞が脳に起こるリスクが高いことがわかっていました。血圧降下剤での治療を行っていました。十分予防をしていたのに、なぜ脳梗塞を起こしてしまったのでしょうか。

いろいろ調べた結果、「糖化」が関係していることがわかりました。糖化とは、食事で摂取した糖と、体内にあるたんぱく質が結びつき、AGEという劣化たんぱく質が蓄積してしまう現象です。AGEがたまると、体の老化が早まり、動脈硬化が進みやす

くなります。

実はこのAGEは、ヘモグロビンA1c（以下HbA1c）が7%くらいで、たまりやすくなると考えられているのです。

TさんのHbA1cは、7.75%で推移していました。糖尿病でいえば「ちょっと悪い」くらいのレベルです。ですが、AGEの蓄積を防ぐためには、6%台に下げようもつと厳格にコントロールすべきだったのです。

体内で糖化が進んでいるかどうかについての検査は、現在のところ一般的にはできません。しかし今後、研究が進み病態の評価が広がることによって、合併症予防の可能性も広がるものと思われまます。

しかし逆に、合併症の原因には、まだまだ解明されていないものも多いということです。私たち医師も既存の常識にとらわれず、多角的に学んでいかなければと痛感いたしました。